

《目次》

【診療科・部門紹介】

- ▶▶ 口腔顎顔面外科
- ▶▶ 冠・ブリッジ科
- ▶▶ 肝疾患相談センター
- ▶▶ 産婦人科
- ▶▶ 臨床心理室
- ▶▶ 麻酔科
- ▶▶ 救命救急センター

● 錦江湾魚ごよみ

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

〈患者さんの権利〉

1. 良質な医療を公平に受ける権利
2. 人としての尊厳を尊重される権利
3. プライバシーや個人情報保護される権利
4. 自分の状態や診療内容について説明と情報提供を受ける権利
5. 自分の意思で医療を選択する権利

〈患者さんの責務〉

1. 自分の健康状態についてできる限り正確な情報を提供する責務
2. 当院の規則を守り、迷惑行為を慎む責務
3. 診療費を速やかに支払う責務

手術で治すかみ合わせと顔貌 ～3次元グラフィックスを応用した顎矯正治療～

こう ぐう がく がん めん 口腔顎顔面外科

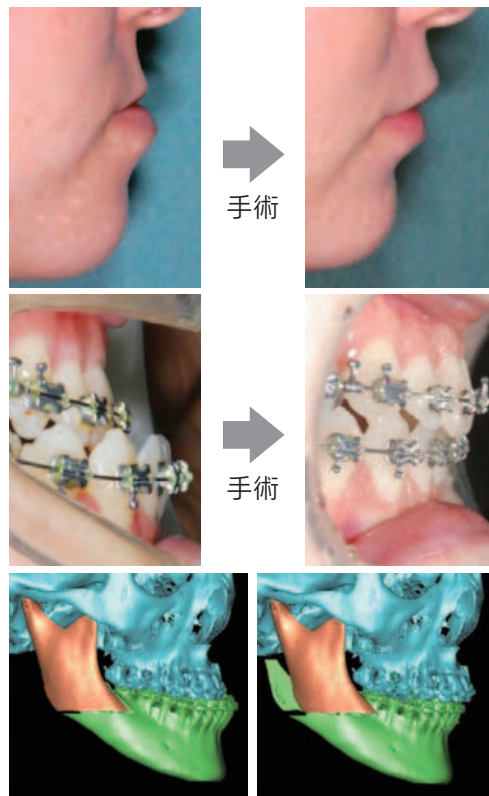
顎矯正治療は、通常の歯列矯正(歯並びを治す治療)だけでは十分なかみ合わせの改善ができない患者さんに行われ、**手術**によって下顎骨、上顎骨のいずれかもしくは両方の骨を切つて**かみ合わせを治し**、合わせて**顔の形も改善**できる治療法です。

日本では、下の前歯が上の前歯の前に出てしまういわゆる**受け口(下顎前突症)**の女性の方が多いです。本治療を受けることで、きれいなかみ合わせと下あごの出た感じが解消されます。費用についても手術を前提とした顎矯正治療は、手術費用も手術前後の歯列矯正の費用も**健康保険が適応**されます(通常の歯科矯正治療は健康保険は適応されません)ので、患者さんご自身の負担は少なくなります。

基本的な手術法が日本でされるようになって40年を経過し一般的な治療法となっていますが、近年ではX線CT画像から立体画像を製作して**3次元グラフィックス(3DCG)**技術を応用して模擬手術を行い、実際の手術に利用しています。かみ合わせや顔貌にお悩みの方はご相談ください。

当科ホームページ(鹿大口腔顎顔面外科)

<http://www.hal.kagoshima-u.ac.jp/dental/omfs2/medical05.html>
もご覧ください。



コンピュータ画面上での仮想手術

強度と審美性を兼ね備えた 人工歯の臨床応用

わたしたちが行う補綴(ほてつ)治療では、咬む行為や発音・嚥下を助けるという機能面だけではなく、自然な口元を構成する色や形といった審美性の回復は重要です。そこで様々な材料を用いて口の中の過酷な環境に耐えつつ機能・審美の条件を満たす人工の歯を作り、装着しています。審美性の面からするとなるべく金属の使用は控えたいところです。しかし従来の材料では強度の面で問題があり、奥歯など大きい力がかかる歯や、数本の歯がつながるような大型の装置には金属材料の併用が不可欠でした。

近年、強度と審美性を兼ね備えた材料として歯科用ジルコニアセラミックスが開発され臨床応用されています。大きな特徴として金属の強度を持ちながら黄白色に近く、審美的に有利なことがあげられます。ジルコニアセラミックスによる人工歯の原型はコンピューターを用いた設計とコンピューター制御による切削加工システムで製作されます。最終的に歯科技工士による仕上げを行う方法が一般的です。現在は陶材を焼き付けてさらに審美的に仕上げる方法と、ジルコニアセラミックスのみで製作して大きな力にも耐えられる人工歯とする方法があります。歯やかみ合わせの状態などで治療法も変わってきますので、歯科医師による診査と診断が必要になります。この治療法は保険適応外ですので詳細はご相談下さい。

冠・ブリッジ科



完成したジルコニアセラミックス製のブリッジ。



上の奥歯に装着されたジルコニアセラミックス製ブリッジ。大きな力がかかりやすい部位にも使用できる。

鹿児島大学病院

肝疾患相談センター

厚生労働省による肝炎対策事業の一つとして、鹿児島大学病院は「鹿児島県肝疾患診療連携拠点病院」に選定されています。また、平成21年9月1日からは、本事業の一つとして鹿児島大学病院内に「肝疾患相談センター」が開設され、今年で5年目を迎えます。

肝疾患相談センターは、220万人から340万人程度存在すると推定されているB型肝炎やC型肝炎ウイルス感染者が、電話やメールで気軽に相談できる窓口としての役割を担っています。その他、肝臓病の正しい知識の普及や肝がん撲滅の啓発を目的とした市民公開講座を開催したり、医師や看護師さんなど医療従事者向けの「肝疾患連携ネットワーク研修会」を年3回開催し、肝疾患の最新情報を発信する事で、鹿児島県下の肝疾患医療の均霑(きんてん)化に努めています。

さらに本年度は、厚生労働省が奨める「肝炎患者の就労に関する総合支援モデル事業」にも参加し、長期治療が必要な肝炎患者に対し、就労を維持しながら適切な治療を受けることができるように環境の整備を進めています。

肝疾患相談センターでは、患者さん自身のみでなく、家族からの相談も受け付けています。電話およびFAX番号は、099-275-5329(平日午前9:00～午後4:00まで)です。また「鹿児島大学病院 肝疾患相談センター」のホームページから、メールでの相談も可能です(24時間受け付け)。是非アクセスしてみてください。

お腹を大きく切らない先進医療
「腹腔鏡下子宮体がん根治術」

先進医療とは、一般の保険診療で認められている医療の水準を超えた最新技術の中で、安全性と治療効果が確保された技術として、厚生労働省から承認された医療行為のことをいいます。先進医療を取り扱うのは、専門家や国の関係審議会により、医療スタッフの質・量が十分と認められた病院に限られます。

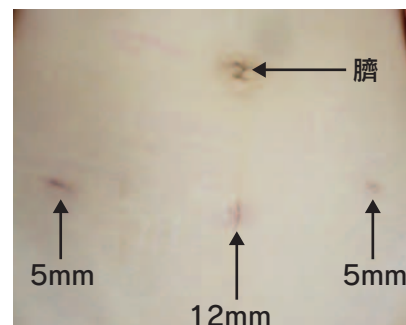
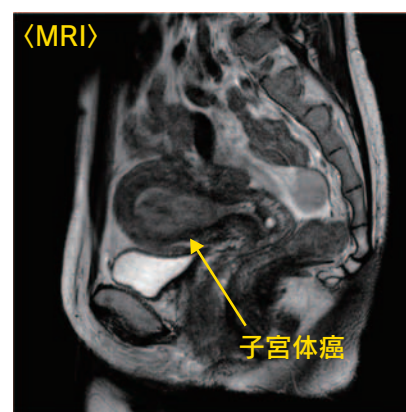
子宮体がんに対する治療は、手術療法が主治療となっています。現在、一般的に行われている手術療法は、開腹による子宮・付属器(卵巣、卵管)摘出、リンパ節郭清(かくせい)であり、15～20cmの皮膚切開を必要としますが、これを5～12mmの数カ所の小切開による腹腔鏡下で手術を行う方法です。腹腔鏡下手術といっても、お腹の中で行うことは開腹手術と同じです。この腹腔鏡下子宮体がん根治術は、開腹による方法と比較して侵襲が少ないため、体への負担を大幅に減らすことができます。具体的には、術後疼痛の軽減、入院期間の短縮、早期の社会復帰が可能となります。治療効果も開腹手術と同等と考えられています。また、腹腔鏡を用いることにより、骨盤内の深い部分も確実に観察でき、出血量も減らせます。手術創が小さいという美容上のメリットも女性にとっては大きいです。

詳しくお知りになりたい患者さんは、是非一度ご相談下さい。

初診診療曜日:毎週火曜日、木曜日 午前8時30分～午前11時 (要予約)

産婦人科外来 TEL 099-275-5888

産婦人科



アセスメントと心理的支援

臨床心理室

臨床心理室では、各診療科からの依頼を受け、乳幼児期から高齢者まで幅広い方々を対象に、臨床心理学に基づいた心理療法・心理検査などに、臨床心理士が取り組んでいます。

「臨床心理士」とは、臨床心理学にもとづく知識や技術を用いて、人間の“こころ”の問題にアプローチする“心の専門家”であり、心理検査とよばれる検査(アセスメント)の専門家でもあります。心理検査では、性格や心の内のあり様を捉えようとするものから、うつや不安といった症状の程度を測るもの、記憶力や認知機能と呼ばれる脳の機能を調べるものまで種々あります。アンケート形式の簡単なものから、用具を使って取り組んでいただくものまで、形式や方法も色々です。

また、当室では、さまざまな悩みや問題を抱えた方の個人面接(心理カウンセリング)を行っています。ここでは、専門的な理論や技法の体系である心理療法(行動療法や認知行動療法など)を用いて支援を行っています。対人コミュニケーションの苦手さを改善したい、症状の自己管理をより上手にできるようになりたいなど、取り組む問題や課題は多様ですが、ご本人に寄り添いながらご本人の力が最大限に発揮できるように援助させて頂ければと思っています。

麻酔のQ&A

麻酔科

Q. 麻酔科はどのような仕事をしているのですか？

A. 大きく分けて二つの仕事があります。 1. 安全・快適な麻酔 2. 痛みの治療

麻酔科では、大切な治療である手術を安心して受けるために、安全・快適な麻酔が提供できるよう日々努力しています。そのためには、手術時の管理だけでなく手術前の診察も重要です。普段気にならない慢性の病気が、手術中は大きな負担となることがあります。手術前の準備が大変だとは思いますが、安全、快適な麻酔のための診察に御協力いただきますようお願いいたします。

Q. 安全・快適な麻酔の工夫は？

A. 主に2つのことがあげられます。 1. モニターの充実 2. 新しい麻酔法

眠っている手術中の体の状態は、モニターをみて調節します。モニターには、心電図、血圧計、酸素飽和度計など、以前から使われているもののほかに、超音波診断装置(エコー)や、脳波計、呼吸機能など新しいモニターも使いより詳細に体の状態が理解できるようになっています。さらに新しい麻酔の薬剤も開発され、より覚めの早い麻酔ガスや効果の調節がしやすい筋弛緩薬など、麻酔の質も向上してきています。

Q. 痛みの治療とは？

A. 手術後の鎮痛方法やペインクリニックがあります。

手術後は、痛いのが当たり前だと思っていないでしょうか。手術後の痛みを減らすことは、日常生活への復帰を早めるという報告があります。麻酔科では、薬による方法だけではなく、背中から細い管をいれて胸やお腹の痛みを減らす硬膜外麻酔という方法や、超音波診断装置を用いた神経ブロックといった方法で手足の痛みを減らす方法を合わせて行っています。これを応用したものがペインクリニックになります。ペインクリニックでは、手術の後に限らずいろいろな痛みについて診療しています。痛みで困っている場合は、ペインクリニックで診察を受けてみられてはいかがでしょうか。

救命救急センター 看護部

当院救急部は、平成25年にヘリポートを備えた新棟の開設に伴い、一刻を争う重症患者さんへのより迅速な対応が可能となりました。平成26年4月からは救命救急センターとして整備され、心筋梗塞、くも膜下出血、交通外傷や重症肺炎などの重篤な救急患者さんへより高度な医療を迅速に提供しています。

救命救急センターでは、「大切な命を救いたい」という強い思いのもと医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、ソーシャルワーカーなどがそれぞれの専門性を最大限に生かしチームで最善の医療・看護を提供しています。

また、救急看護認定看護師2名、小児救急看護認定看護師1名がおり、より高度な知識・技術を実践に生かすとともに、救命処置や外傷看護、災害看護等の看護師教育を担い、救急看護の質向上に取り組んでいます。



ドクターヘリの運行により、遠方からの患者さんへも迅速に治療・処置が行えます。



日頃は、認定看護師が最新の知識・技術をスタッフへ伝達します。



初療室での迅速な検査・治療に対応しています。

一人でも多くの命を
支えるために

専門のスタッフがチームで
最善の医療・看護を
行います。



入院中はできるだけ心身の機能を維持する援助を行っています。



緊急入院で不安の強いご家族が少しでも安心できるよう入院生活や病気のことについてご説明します。



毎日チームでカンファレンスを行い、患者さんにあった最善の医療・看護を提供しています。

クマノミの卵保護

桜島西岸の岩礁地帯。マスクをつけて海に入ると、溶岩の海底のあちこちに大きなサンゴイソギンチャクが触手を波に揺られているのが見られます。

そのイソギンチャクから顔を覗かせる魚がクマノミです。クマノミはサンゴ礁の海の魚というイメージが強いのですが、実は錦江湾こそ、日本で最もクマノミが多い海とっていいほど多くのクマノミが暮らしています。サンゴイソギンチャクが多い錦江湾はクマノミたちの楽園なのです。

近づくと、「カチカチ」という音を出して威嚇してきます。個体によっては、体当たりをしてくるものもいます。かわいい姿に似合わずとても気の強い魚なのです。こうして、イソギンチャクに近づくものを追い払う代わりに、毒のあるイソギンチャクの触手に守られて暮らしています。

六月下旬から八月にかけて、彼らは繁殖のシーズンを迎えます。夫婦で丁寧に掃除したイソギンチャクの側の岩肌に、雌は千粒ほどの卵を一時間ほどかけて産み付けます。それから甲斐甲斐しい卵の世話が始められます。胸鰭で新鮮な海水を送ったり、卵の上に落ちたゴミを取り除いたり、卵を狙う魚を追い払ったり、時には近づく大きなタコにまで勇敢に立ち向かいます。

産みつけられて2日程はオレンジ色の卵も、8日程経つと、卵の中に仔魚の目が輝き始めます。そしておよそ10日たった日没後、雄が卵を刺激すると、それに応える様に、仔魚たちはたった1匹で暗闇の海中に旅立っていきます。



胸鰭で卵に新鮮な海水を送る、クマノミの雄

TOPICS

鹿児島大学病院のある桜ヶ丘キャンパスでは、毎年2回の防火訓練を実施しています。7月4日に昼の火災を想定した訓練、2月27日には、夜間の地震災害による火災を想定した訓練が実施され、多くの教職員が積極的に



に参加し、鹿児島南消防署脇田分遣隊の協力により、放水車も出動して大規模な訓練が行われました。病院スタッフは患者さんの安全確保を第一に、消火訓練、避難訓練、通報訓練などの総合訓練に真剣に取り組んでいました。



広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気について的一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。

また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈33号〉

2014(平成26)年4月発行

発行／鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>